

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	公益社団法人 落語芸術協会
公演団体名	日本講談協会

内容
<p>●講談を知る 講談という芸はどんな成り立ちをしているのか、どのように語るのか等、講談のいろはを易しく解説。堅くなりがちな講談を、落語の寄席で培った笑いのエッセンスでくるんで、児童・生徒の皆さんに魅力を感じてもらえるよう解説します。</p> <p>●講談を体験する 簡単な高座を設営し、児童・生徒の皆さんには体験として、張り扇を叩いてリズムを取ったり、簡単な一節を講師と共に語ったり、一方的な講話にならないよう配慮いたします。</p> <p>●「張り扇（はりおうぎ）」を作ってみよう！ 講談と言えば釈台をぱんぱん叩いてリズムを作り出す独特の仕草！そのリズムの元になっている張り扇を自作してみましょう！プロの講談師も張り扇は自分で作ります。（材料については当会にて準備し、事前に送ります）</p> <p>●代表児童・生徒の公開練習 本公演の際にプロに交じって実際に講座に上がってもらう代表児童・生徒を3名選出しておいてもらい、こちらが用意した台本を児童・生徒の皆さんの前で練習してもらいます。</p>

タイムスケジュール（標準）
開始1時間前 学校到着、会場準備（高座設営）・打合せ ワークショップ 90分程度（2時限） ワークショップ終了後 会場撤収（50分程度）、その後退去

派遣者数
講談師2名（真打・二ツ目各1名）、前座1名（講談の前座、もしくは落語の前座） 事務局1名 合計 4名

学校における事前指導
特にありません。

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	公益社団法人 落語芸術協会
公演団体名	日本講談協会

演目
<p>●「しばられ地藏」</p> <p>〔原作〕古典作品のほとんどは、原作者不明とされている。</p> <p>〔脚本〕この公演で演じられる古典作品は江戸時代から継承される口演台本があるが、必ずしも全てが明文化されているわけではなく、ほとんどが師匠などからの口伝によるものである。</p> <p>〔演出〕師匠から教わったものを基本として演者各々が自身で演出する場合はほとんどである。</p> <p>※現存の寺院にまつわる物語であることから現代に生きる自分たちと結びつけて思考することが出来、真面目に努力することが最良の結果を呼び込むというストーリーであることから、児童生徒の心に残ってくれることと考える。</p> <p>※上記演目は必ず演じられるものではありませんが、上記のように児童生徒の皆さんの心に、教訓として残る演目を一つ掛けます。</p>

派遣者数
講談師 真打・二ツ目・前座各1名（落語の前座の場合あり）
落語家 真打1名 講談・落語以外の芸 1～2名（太神楽曲芸・奇術など）
お囃子 1名
事務局 1名
舞台専門スタッフ 3～4名 合計 10～12名を予定

タイムスケジュール（標準）
09:00頃 舞台スタッフ到着（会場設営）
11:00～11:30 出演者到着（その後、音響・舞台チェック・昼食・着替え）
12:30頃 代表児童生徒の着替え・リハーサル
13:30開演、15:10終演予定（その後、片付け・舞台撤収）
16:00頃 出演者退去予定
17:30前後 舞台スタッフ退去予定

実施校への協力依頼人員
着替え・リハーサルの際に、先生お一人で結構ですので、立ち会っていただくと助かります。公演前・休憩時・公演後の児童生徒への案内や指示をお願いします

演目解説

●「しばられ地蔵」のあらすじ

江戸時代、八代将軍徳川吉宗の時代に、日本橋にある呉服問屋の手代が、南蔵院というお寺の境内でうっかりうたた寝してしまい、その間に商売品である反物を荷車ごと盗まれてしまいました。

調べに当たることになった南町奉行大岡越前は「寺の前で黙って泥棒の悪行を見過ごすとは、地蔵も同罪である」と縄で縛って召し捕りました。

地蔵はぐるぐる巻きに縛られた姿で、車に乗せられ江戸市中引き回しの上南町奉行所へ！

それを見ていた江戸中の市民がどんなお裁きが下されるのか奉行所になだれ込みました。

その様子を見て越前守、一斉に閉門し、「天下のお白州に乱入するとは不届きである、罰として反物1反を科料とする」と発声、後日集まった反物の中から盗品が見つかることとなった。そこから盗賊も一網打尽、名奉行の名采配の物語。

南蔵院ではそれ以来、お地蔵様をお願いするときは縛り、願い叶えば縄解きするという風習が生まれ、現在でも盗難除け、足止めなど、あらゆる願い事を聞いて下さる霊験あらたかな地蔵尊として祀られている。

※出演者により他の演目を選択する場合がありますが、子供達の成長につながるような教訓が備わった講談を披露したいと考えています。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

講談を鑑賞する前に、代表児童生徒に講談（当会が台本を用意した5分程度の短い講談）を、プロの実際の高座に上がり、披露してもらう。

この際和服・袴を着用し、余裕があれば高座返し・めくりを返すなども担ってもらい、出演者の一員として共演する。

児童生徒とのふれあい

時間があれば、公演の終わりに児童生徒の感想を受けたり、質疑応答の時間を設けたり、講談をより理解してもらえるよう努める。代表児童生徒には、リハールから出演前の待機時間にも気を配り、高座を楽しんでもらえるようにする。

【補足】

ワークショップについて、通常の2コマ確保が難しく短縮1コマで行う学校や、現時点で保留・実施が難しい学校もあったので、学校の状況に合わせて内容を工夫して取り組む予定です。

例えば1コマなど短縮バージョンの場合は、張り扇作製を省き、事前に材料を送り各自作成してもらったものを使うか今回は張り扇は代表児童生徒のみ準備するかで対応。代表児童生徒の公開練習もポイント解説など簡単なものにし、お手本ビデオなどをこちらで準備して、細かいところはビデオを見て本公演までに練習できるようにする。講談に興味を持ってもらえるよう分かりやすく解説し、講談口調をみんなで真似してみたり高座で演じてみたり、短時間で面白さが伝えられるような内容を考えております。

実施が困難な学校は、お手本ビデオ等を事前に準備し、代表児童生徒はそれを参考に練習をしてもらい、本公演当日のリハーサル時間を少し長めにとり指導します。公演冒頭では落語と講談の違いや講談口調の特徴など講談についての解説を行い、理解を深めてもらえるような内容を加えます。

代表児童生徒の皆さんの着物については除菌スプレー等で対応する予定ですが、着回すことに不安がある状況の場合は、小学生は私服・中学生は制服で発表も検討しております。ほか、改善しなければいけない部分があれば学校側と話し合い調整します。